

GIGAスクール構想に向けた1人1台端末の活用

岩見沢市立南小学校 学級数17 (校長 菅原 伸介)

I 実践テーマの趣旨

岩見沢市のGIGAスクール構想を実現する取組は、令和2年度の夏季休業中における校内の無線LAN工事から始まり、同年10月には1人1台の端末が各校に貸与された。本校では、1人1台端末を活用した授業の実施に向けて、令和2年4月より既存のタブレット端末20台とノートパソコンを使ってクラウド支援ツールを活用した授業実践を積み重ねてきた。

授業の構築に向けた校内研修では、若手教員がICT機器の操作について、中堅教員が授業での活用法について提案するなど、それぞれの得意分野を生かした研修を実施した。また、タブレット端末が教職員にも貸与されたことにより、職員会議及び研修の資料がPDF化され、ペーパーレス会議を実現することにもつながるとともに、教職員が情報共有のために、日常的にGoogle Classroom等を活用することを通して、子どもと同じ目標で1人1台端末の活用の有効性を実感している。

II 実践の概要

1 休校時における動画配信による学びの保障

新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言下の臨時休校時には、YouTubeを活用し、全学級で教科書の内容を中心とした動画配信を行ったが、本校では事前に校内研修を実施していたこともあり、スムーズな配信を行うことができた。また、岩見沢市教育委員会で導入を進めている学習支援ツールのロイロノートについては、いつ臨時休校や学級・学年閉鎖になっても学びを止めずに学習活動ができるよう各教科の学習の中で積極的に活用している。

2 1人1台端末を有効活用するための研修会の実施

本校の1人1台端末の活用については、全学年でロイロノートを活用した授業実践を進めていることがポイントとなっている。全学年で同じツールを使うことで、学年が変わっても子どもが困り感をもつことなく活用できるようにした。また、ロイロノートや大型提示装置を児童が文房具として使用できるよう、教職員による自主的なミニ研修会を行っている。

本校では学習に関する活動であれば、子どもが休み時間も自由にタブレット端末を使うことができるようになっているため、高学年になると委員会活動や学習の続きを休み時間に取り組む子どもが増加し、子どもの主体的な活用の幅が広がるとともに情報活用能力の向上にも成果が見られた。

1人1台端末が整備されて一年が経過しようとしているが、この間、高学年はロイロノートだけではなくGoogleアプリ等を主体的に授業で活用する姿も見られ始め、学習内容に合わせて、どのアプリケーションで考えをまとめするのが最適かを自己判断できるようになってきている。

3 岩見沢市教育研究所の研究指定校としての研究

令和3年度は、岩見沢市教育研究所の情報教育研究指定校として「ICTを効果的に活用して協働的に学ぶ場面を位置付けた授業」の研究を進め、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、ICTを活用した協働的な学びについて実践検証している。具体的には、問題を解決するために必要な情報を集め、協働で解決する学習活動を意図的に設定するとともに、1人1台端末を、情報を集めたり、意見を集めたり、自分の考えをまとめたりするために活用している。日常的に活用することで子どものICTスキルが向上し、授業の目標を達成するための学習道具の一部として活用する姿が見られるようになってきている。

III 成果と課題

- 1人1台端末の持ち帰り実証実験を行った第5学年の家庭学習では、AI型ドリルやプリント作成ソフトで作成したプリントをクラウドで送信し、授業で使っているGoogleアプリを活用して家庭学習に取り組む姿が多く見られた。

また、家庭学習では、例えば、社会科の学習で疑問に思ったことを、級友とオンラインでGoogleスライドを用いてまとめる等、児童が主体的に1人1台端末を活用して学習することにつながった。

- 家庭での使用については、時間などのルールが守られないこともあったことから、自分たちでルールについて考える場をもち、使用について主体的に考えることが必要である。

また、端末の持ち帰りによる子どもたちの主体的な活用に向けては、情報活用能力及び自己調整力の向上への効果にも視点を当てて、取組を充実させていく必要がある。



【授業動画配信の様子】



【ミニ研修会の様子】